

SUR LES NATIONS UNIES
SOBRE AS NAÇÕES UNIDAS

关于联合国

KWA HABARI YA UMOJA WA MATAIFA

ABOUT THE UNITED NATIONS

عن الأمم المتحدة

ОБ ОБЪЕДИНЕННЫХ НАЦИЯХ

ÜBER DIE VEREINigten NATIONEN

SOBRE LAS NACIONES UNIDAS

国際連合について

SULLE NAZIONI UNITE

国連について教える

— 国連平和維持活動 —

国連平和維持活動について教える



国際連合広報センター 1990

はじめに

国際問題についての教材用ビデオ、指導手引き、学習用ガイドのこのシリーズは、国際社会が直面している世界的諸問題や、国際連合がそれにどう対処しているか、教師や生徒が理解し、評価するための手助けとなるよう企画されたものである。そしてユネスコ（国連教育科学文化機関）の指導の下、他の国際機関や非政府機関が作成した国際連合に関する教材を補足しようとするものである。

このシリーズによって、若い人たちが国際連合憲章の理念に沿って生きるよう勇気づけられれば幸いである。というのも、教育とは広い意味で公正で平和な世界の重要な基礎となるからである。

国連事務総長

ハビエル・ペレス・デクエヤル

目 次

前 書 き	1
教師の皆様へ	2
授 業 例	
I. 国連の平和維持活動について	
ビデオを利用した授業の手引	4
II. 平和維持兵へのインタビュー	
授業の目標と授業を行なう上での提案	6
読んでみよう・「平和のために働く」	7
演 習 例	11
III. ノーベル平和賞	
授業の目標と授業を行なう上での提案	12
読んでみよう・「ノーベル平和賞」	14
演 習 例	17
事務総長のノーベル賞受賞記念講演より	18
IV. 平和維持とは何か	
授業の目標と授業を行なう上での提案	19
読んでみよう（1）・2つの村の話ーある架空の紛争	20
演 習 例	21
読んでみよう（2）・キプロスの場合	23
演 習 例	25
紛争はどのように扱われるかー平和的解決のための方法ー	25
国連平和維持活動の地図と一覧表	26
資料目録	32



前 書 き

「国連について教える—国連平和維持活動」は中等教育の教師のための手引書です。平和維持に関する国連についての豊富な情報をまとめ、教室で簡単に利用できるような形で提供することをねらったものです。

この手引は単独でも、教育用ビデオ「国連について教える—国連平和維持活動」と併用しても、利用することができます。このビデオは平和維持軍兵士が出演しており、活動中の兵士の様子や国連平和維持活動の歴史の概観など平和維持活動を視覚的に説明しています。この手引の第1章はビデオを利用した授業のための指導手引きとして書かれており、他の章は平和維持問題について詳しい記述を行なっています。

平和維持の問題は、社会科、歴史、政治科学、地理及び時事問題の科目で扱うとよいでしょう。

教師の皆様へ

なぜ国連の平和維持活動について教えるのでしょうか

現代の若者たちは、世界が混沌とした暴力的なものだと思っていないでしょうか。生徒達は学校で、国際協力の進展と国際社会のための国連の役割について学ぶ必要があります。この手引は国連の活動のひとつである、平和維持に焦点を当て、紛争解決と平和のための活動の具体的な例を示しています。

国連の平和維持は革新的な考え方で、地域紛争が、国連憲章が想定したような公正で平和な社会への脅威となる世界の中で発展してきました。平和維持活動は、状況をコントロールし、殺戮をやめさせ、根底にある紛争を解決する上で必要な状況をつくり出すことを目的にしています。このように国連は平和とよりよい世界のための努力の中心にあります。

この手引は、若者が今日の世界の紛争の存在に気がつき、その原因に関心を持つよう促し、戦闘を終結させ平和をもたらすために前向きな行動がとられていることを伝え、国連がより良い世界を築くためにさまざまな方法で活用でき、また活用されてきたことに理解を深めるという、3つの目的のために作られています。

どのような面に関してでも国連の活動について教えることには、共通した課題があります。その目的は、それぞれの個人と国がそれぞれのやり方で自由に発展できるような公正で平和な世界です。現実の世界は、暴力、不公平そしてどん欲が多く分野において進歩を妨げている移行期にあります。問題は、何が成されなければならないかなのです。個人と国が協力し、国連憲章の理念を実践することが今、緊急の課題となっているのです。

この手引の構成

「国連について教えるー平和維持活動」は4つの授業例から成り立っています。授業例Ⅰは教育用ビデオを利用した授業例です。

授業例ⅡからⅣでは平和維持の様々な側面を探ります。それぞれの授業例は、授業の目標、授業を行なう上での提案、読書教材そして演習例を含んでいます。授業例Ⅱは平和維持兵の物語を取り上げ、平和維持の仕事を探ります。授業例Ⅲでは国連平和維持軍がノーベル平和賞を受賞したことに焦点を当て、平和な社会を生み出すための方法を考えます。授業例Ⅳは2つの節に分かれており、架空の紛争例を通して平和維持への理解を深めます。また、実際の平和維持活動の事例を通じ、国連が平和への脅威に対応する方法を探ります。

この手引は、定められた方法を述べるというより、むしろ授業を行なう上での参考として作られました。提案、演習そして読書教材は、その個々のクラスに最も適した方法で利用してください。本書は複写して生徒に配布してもかまいません。

巻末の文献目録は、現在入手できる平和維持に関する国連出版物と映画を掲げました。

国際連合の目的は次のとおりです。

- 1 国際の平和及び安全を維持すること。そのために、平和に対する脅威の防止及び除去と侵略行為その他の平和の破壊の鎮圧とのため有効な集団的措置をとること並びに平和を破壊するに至る虞のある国際的の紛争又は事態の調整又は解決を平和的手段によって且つ正義及び国際法の原則に従って実現すること。
- 2 人民の同権及び自決の原則の尊重に基礎をおく諸国民の友好関係を発展させること並びに世界平和を強化するために他の適当な措置をとること。
- 3 経済的、社会的、文化的又は人道的性質を有する国際問題を解決することについて、並びに人種、性、言語又は宗教による差別なくすべての者のために人権及び基本的自由を尊重するように助長奨励することについて、国際協力を達成すること。

(国連憲章より)

授業例Ⅰ 国連の平和維持についてのビデオ

授業の目標

- 国連の平和維持について直接触れる。
- 平和維持活動の活動内容について学ぶ。
- 平和努力においては、勇気とコミットメントが必要なことを認識する。

授業を行なう上での提案

- ビデオを見る前に、教師は生徒がこの問題について考えるように促してもよいであろう。このための質問例を下記に掲げた。
- 授業例Ⅱではビデオに出演しているダーモット・アーリー陸軍中佐とのインタビューを取り上げている。ビデオを見た後で、平和維持とその日々の活動についてさらに学ぶために、生徒にこのインタビューを復習させる。インタビューを読むことにより、ビデオで学んだ国連の平和維持活動の中心的な特徴について一層明確に理解できるであろう。
- 国連の平和維持活動の設置の経緯について深く調べるために、平和維持活動を必要とするにいたった紛争の状況を調査するための演習を生徒に与える。11ページの演習例を参考にする。

ウイントフークに到着したケニアの軍事警察員。7,000名以上の国連兵士、警察官そして文民がUNTAGに参加した。



ビデオを見る前の質問

- 「兵士」という言葉を聞いて、何を思い浮かべますか。
- 国連平和維持活動はどのようなものだと思いますか。
- 国連の平和維持活動の名をいくつか挙げることができますか。その場所を地図の上に示すことができますか。

あ ら す じ

ビデオにおいて、事務総長の次席軍事顧問、ダーモット・アーリー中佐が文書資料をもとに、国連の平和維持の歴史を説明する。ダーモット・アーリー中佐はまた中東の2つの国連平和維持活動における自らの経験を語る。

イラン・イラク間の停戦監視で、またキプロスのギリシャ系住民とトルコ系住民の間の対立を克服する上で、国連の平和維持兵は対立する勢力の間の交渉のための環境を整備し、平和のための仲立ちとして何回となく関わってきた。ビデオは、多国籍の平和維持軍の結成、兵士や軍事監視員の日々の任務、その活動に伴う危険性など、活動中の平和維持兵の姿を紹介する。また平和維持兵の訓練については北欧諸国から派遣された兵員の訓練の様子を紹介する。

1948年に最初の平和維持活動が展開されて以来、50万人以上の男女が軍事、民生の両面で国連で働いてきた。1989年に組織されたナミビア独立移行支援グループ（UNTAG）には数多くの軍人と文民が従事し、自由で公正な選挙を監督・管理することにより、南アフリカに支配されていたナミビアが独立国へと移行するのを援助した。平和維持兵は、単に対立する勢力の間に立つだけでなく、「新しい国の創造」を援助したのである。

授業例Ⅱ 平和維持兵へのインタビュー

授業の目標

- 国連の平和維持について直接触れる。
- 平和維持活動の活動内容について学ぶ。
- 平和努力においては、勇気とコミットメントが必要なことを認識する。

授業を行なう上での提案

- 平和維持について人間的な側面から学ぶ。インタビューは、平和維持兵の活動と国連活動の中でどのような位置づけをされているかについて生徒の関心を喚起するように企図されている。
- 平和維持の日々の仕事と平和維持が軍事的なものだけではないことを学ぶ。平和維持には医療団、行政、警察活動そして後方支援など多くの文民部隊が含まれている。
- 演習は、最初の国連平和維持監視団や最初の平和維持軍の設置の原因となった紛争の背景に関する調査を含んでいる。可能ならば、当時の新聞記事や関係者の記述を読むことによって、多国籍の平和維持活動の新たな概念に関する希望や期待を調査する。

レバノン人の少年と談笑するUNIFILのネパール兵。

平和維持兵は軽火器を携帯することが多いが、自衛のためにしか使用できない。



読んでみよう「平和のために働く」

事務総長次席軍事顧問で、2つの平和維持活動を経験したことのあるダーモット・アーリー陸軍中佐が、平和維持活動に参加した自分の経験を語る。

「まずあなた自身のことを教えて下さい。」

私はアイルランドの陸軍中佐で、国連の平和維持活動には過去2回参加しています。最初は1975年から1977年まで国連休戦監視機構（UNTSO）に、そして2回目は1982年から1983年の7ヵ月ほどの間、南レバノンにおいて国連レバノン暫定軍（UNIFIL）に南レバノンのアイルランド歩兵大隊兵士として参加しました。出身はアイルランドの西部で、5人兄弟の一番上です。妻と男女3人ずつの6人の子供がいます。

17才の時、士官候補生としてアイルランド防衛軍に入隊しました。10年後、27歳の時、昔からの夢だった国連平和維持兵に採用されました。

「どのようにして平和維持軍に採用されたのですか。」

アイルランドの国連歩兵部隊や軍事監視員への任用はあくまでも自発的な申し出によるものです。ですから、任務につくことを望み、関係機関が採用してくれるよう希望するのです。私は将校になった時から国連任務希望者のリストに名前を登録したのです。

「どうして平和維持兵になりたいと思ったのですか。」

多くの理由がありますが、まず何より、アイルランドが1958年から国連の平和維持活動に参加していたことが挙げられます。私達は平和維持の伝統を培っており、国連平和維持活動に参加することが自分の軍歴において重要で、同時にたいへん意味あることと考えられているのです。私にとって、多国籍の平和維持軍に参加し、他の国の兵士と近しく接することは興味深く、また重要なことでした。国連のために海外で活動する機会を得ることを、多くのアイルランド兵が熱望していました。今の兵士もそれは同じです。

「多国籍の平和維持軍に参加して、言葉が通じないなど困ったことはありませんでしたか。」

いや、まったくありませんでした。平和維持活動の作業用語は英語で、実際、参加している人たちの大半は、十分に英語を使いこなします。それに、仕草、グラフ、地図やシンボルなど軍人なら誰でも理解できる共通語があるのです。平和維持兵は固い友情で結ばれています。監視団では自国籍以外の士官と活動します。

「任務中はどのような制服を着るのですか。」

どのような階級の制服であっても、任務中は自国軍の制服を着ます。それに加えて、国連の記章をつけ青いベレー帽をかぶります。ブルーヘルメットは国連平和維持兵のシンボルになっており、全ての活動で携帯され、危険な場合かぶるのです。また、上半身のための対高射砲ジャケットのような防

御用の装備も身につけます。

「平和維持活動とは正確にはどのようなものなのでしょうか。」

平和維持は、和平のための努力が行われている間、対立する国や勢力を戦闘行為から引き離しておくために、国連の指揮の下で人員を活用する技術です。実際には、部隊を展開するという形を取ります。平和のために実りある話し合いが行なわれるような雰囲気作りを助けるのです。

「平和維持活動はどのように設置されるのですか。」

普通は全ての紛争関係者の同意の上に、安全保障理事会が設置します。平和維持活動のための監視員や人員は、総指令官である事務総長の要請に応じて、加盟国から派遣されます。

「平和維持活動の費用は誰が負担するのですか。」

全ての国連加盟国が、平和維持費用の割当を支払うよう求められます。兵力派遣国はその支出の払い戻しを受けます。

「平和維持兵として、どのような仕事をしましたか。」

私が最初に赴任した国連休戦監視機構（UNTSO）は停戦監視団でした。そこでの私達の主な仕事は指定された監視地域での監視任務で、何日もそこに留まっていた。他の国の士官といっしょに特定の地域に任命され、そこで起こるあらゆる軍事活動について報告するのです。その地域を平穩に保ち、不許可の武器が持ち込まれないようにパトロールすることも要求されました。また、現場を平和に保つために、時々、紛争関係国と協議を行なわなければなりませんでした。

「任務中、緊迫した状況を経験したことはありますか。」

私は、イスラエルとシリアの間のゴラン高原、そして後にはエジプト軍とイスラエル軍の間のシナイ砂漠で任務につきましたが、共に過去に熾烈な戦闘が繰り広げられた、たいへん興味深い場所でした。私の任期中には、個人的には深刻な緊迫状態は体験しませんでした。

シナイで遂行しなければいけなかった任務の一つに、イスラエル軍とエジプト軍が時間を決めて共用していた地域での、両者の間の連絡係がありました。例えば、ある道路が朝の10時から午後2時までイスラエルに対して開放され、その後イスラエル側が閉鎖され、午後3時からエジプト側に開放されるとします。私達はこれを管理し、利用が重複することにより問題が起き、緊張を増し、和平の進展を損なうようなことがないように保証するのです。

「国連平和維持兵は武装しているのですか。」

監視員は武装していません。もし誰かが不許可の武器を持って国連のパトロール地域に立ち入ろうとする場合、その関係者に規則を説明します。それでもなお武器を持ち込もうとした場合、私達にできるのはこのことを本部に通報するだけなのです。その後、本部が緊張を取り除くために必要な外交活動を繰り広げるのです。

平和維持軍はこれとは違います。国連の任務を遂行するために兵力提供国から派遣された武装した

軍事部門があるのです。携帯する武器は自衛のためのもので、強制措置としては使いません。通常、最大で120ミリ口径の臼砲を保持しますが、これは攻撃的な兵器というより防衛的なものと考えられています。

これは、南レバノンでは日没後に特定の地域を明るくするのに大変有用でした。照明弾を打ち上げ、その地域を明るくして監視を行なうのです。それぞれの部隊は、私の場合はアイルランド歩兵部隊ですが、その管理を維持する特定の地域を指定されます。そしてその状況を監視し、緊張をとり除くために必要な行動を取るために、全ての違反を本部に報告するのです。

「あなたか、またはあなたの知る誰かが武器を使用したことがありますか。」

場合によっては、国連平和維持兵が武器を使用したこともあります。それは紛争に関する武装勢力から攻撃を受けた場合に限られます。人命に危機が及んでから、威嚇射撃を行なうか、攻撃を終わらせるような射撃を行うのです。

もしある軍隊が侵犯を試みた場合、それを防ぐために私達ができるのはごく僅かなことに過ぎません。話し合いを始めるか、または侵犯軍の行動に対して形ばかりの抵抗を示すことができますが、国連平和維持軍は侵犯軍と違って、活発な軍事活動のために必要な補助システムや後方支援を保持していません。

「何か興味深い、または印象に残るような出来事を話してもらえませんか。」

シナイにいた時のことです。フィンランド部隊の指令官が集会を催して、イスラエル軍とエジプト軍の指令官を、お互いを招いた事を知らせないで招待したのです。集会を催したテントで、両者が反対側に相手を見つけたとき、ちょっとした緊張が走りました。そして、もし私の記憶が正しければ両者とも立ち去りました。数分の話し合いの後、2人とも戻ってきて、夜が更けきる前まで、いっしょに話をし、たいへん楽しい夕べを過ごしたのです。

もう一つ思い出すのは、ゴラン高原でイスラエルとシリアの兵力引き離し協定の監視に従事していたときの事です。平和維持兵がある場所の調査のための立ち入りをする事ができませんでした。ついにその地域の担当士官は折れて、彼らをテントに招き入れました。テントに入ると、ヨーロッパのサッカー選手の写真がたくさんあったのです。その士官にサッカーが好きなかどうか尋ねると、大好きだと答えてベッドの向こうからサッカーボールを出してきました。

とたんに彼らは外に出て、互いの腕前を見せあい始めました。サッカーの好きな地域指令官はすぐさまゴールに入り、ペナルティ・キックを取ろうとしました。これを見て、配置についている他の人もやってきました。皆が陽気に楽しんでからは、調査を行なうのに何の支障もなくなったのです。

この任地では人命が失われた思い出もあります。最近の平和維持活動では、370名以上の様々な国籍の人々が命を落としています。全ての平和維持活動では合計で750人以上が亡くなっているのです。南レバノンで亡くなった若者の遺体をヘリコプターでバイルートまで運んだことがあります。故国に発つ前に、滑走路で国際式典が行なわれました。また南レバノンで平和のために命を落とした若いアイルランド兵の遺体が故郷に発つのを、ダブリン空港で見送ったこともあります。

「平和維持軍がノーベル平和賞を受賞したとき、どのように感じましたか。」

受賞の知らせがあったとき、私は国連本部にいました。その朝早くノルウェーの常駐代表が事務総長を訪ね、このニュースを伝えたのです。後で事務総長が総会で受賞を伝えたとき、私は総会議場の脇に立っていましたが、満足感と達成感に満ちたすばらしい雰囲気でした。それは40年近くの私達の活動がついに認められたという満足でした。当初から平和維持活動に関わってきた人々にとってはたいへん深い感動であるとともに世界平和のためにその命を捧げた全ての人々に対しての最大の贈り物であったに違いありません。私にとってはまさしくこれ以上の感動はありませんでした。

「ノーベル平和賞は平和維持の将来にどのような影響を与えるでしょうか。」

ノーベル平和賞受賞以来、世界中の全ての国が平和維持に大きな関心を寄せるようになりました。平和維持活動の数が増加するにつれ、活動は多様化しています。中央アメリカでは、国連は安全保障誓約の履行の監視に携わりました。ニカラグアの選挙の全ての過程を監視することすら求められたのです。カンボジアでも、もし合意が成立すれば、平和維持軍は和平協定の履行の監視を求められるでしょう。

もちろん、私達が求めているのは、いついかなる時でも平和維持活動の必要がないような状況です。しかし、世界に紛争がある限り、平和維持は紛争に対して有効であり続けるでしょう。中央アメリカ、東南アジア、西サハラやその他の地域の場合のように。

「将来平和維持兵になるかもしれない若者たちに何かメッセージはありますか。」

兵士としてであれ、文民活動の一員としてであれ、平和のために貢献するのは誰にとっても素晴らしい経験です。平和維持活動の文民部門も忘れてはいけません。これなくしては平和維持活動は機能しないのです。医療関係者、技術者、行政官その他の人々です。何れにせよ、充実した報われる仕事です。平和の努力が実を結ぶのを見るとき、そして自分がその過程に関与したとき、たとえそれがどんなに小さな仕事であっても、ひとは誰も大きな満足に包まれるのではないのでしょうか。

[演習例]

1. アーリー中佐へのインタビューを続けてみましょう。

- あなたならどんなことを質問したいですか。
- 中佐はどのような答えをしますか。

2. 最初の国連平和維持監視団であるUNTSOもしくは、最初の国連平和維持軍であるUNEFが設立されるにいたった、紛争の背景を調べてみましょう。

- できれば、UNTSOかUNEFの設立に関する当時の新聞記事を読んでみましょう。
- 当時のあなたの国の人たちは、この新しい国連平和維持活動の設立に対してどのように考えていたと思いますか。
- 国連平和維持活動が何ができるかという当時の期待は、現在と同じ様なものだったと思いますか。

ヘルモン山をスキーでパトロールするUNTSOの3人のオーストリア兵。



授業例Ⅲ ノーベル平和賞

[授業の目標]

- 国連の平和活動の功績と難しさに気づく。
- 一般的な平和の概念を調べる。
- 平和は固定化された状況ではなく、むしろ継続的な努力とコミットメントを必要とする過程であることを認識する。

[授業を行なう上での提案]

- ノルウェー・ノーベル委員会が示した国連の平和への貢献に対する国際認識によって、その理解を深める。生徒が希望すれば、これまでのノーベル平和賞の受賞者のことを調べ、その様々な平和への貢献を評価してもよい。
- この章は、生徒が平和についてどうすれば平和で調和のとれた社会が作れるかを考えることを後押しすることをねらっている。調和のとれた社会には何が必要かを調べることにより、そのような状況を生み出すための国連の役割を認識することが望まれる。国連は平和維持活動に積極的に関わり、紛争の解決を支援している。同時に国連の努力の多くが紛争の根本的な原因、つまり人種差別、低開発そして人権侵害の除去に向けられている。
- 自国またはその地域の国々を調べ、もし紛争がある場合どうなるかを想定する。教師は、生徒が自国が巻き込まれている紛争の原因を批判的かつ客観的に評価するよう、導いてもよいであろう。生徒は将来の世代であり、その姿勢と行動が世界をどのようなものにするのか決めることができるのだと言うことが強調されるべきである。



(写真の説明)

キプロス平和維持軍のスウェーデン歩兵部隊の兵士。

これまでの軍人、文民を合わせて50万人以上の男女が、
国連平和維持活動に参加している。

読んでみよう 「ノーベル平和賞」

「出身も背景も異なる人々が、一つのことのために集り、彼らはその青春と情熱を平和への奉仕に進んで捧げた。危険を承知で任務に志願し、人が支払うことができるもっとも高価な代償を支払ったのである。」

ノルウェー・ノーベル委員会は1988年、この言葉とともに国連平和維持軍に平和賞を与えました。

12月10日、オスロ大学大講堂で行われた格式ある受賞式では、17人の制服姿の兵士が、青い国連旗を掲げた舞台上で注目を浴びていました。彼らを代表して賞を受けた指令官は、ハビエル・ペレス・デクエサル事務総長。同行したのは、国連平和維持活動の主な創立者の一人である、ブライアン・アークハート卿でした。

兵士達はそれぞれ自国の制服を着ていましたが、国連平和維持活動の記章をつけ青いベレー帽をかぶっていました。彼らは各国から集まり国連平和維持活動に従事している数千人の兵士の代表でした。

ノルウェー・ノーベル委員会のエーギル・オールヴィック委員長は、「ノーベル委員会は世界中の各国からの人員の動員が、紛争を平和的に解決しようとする国際社会の意志の現れであると認識する」とその授賞演説の中で述べています。

設立当初から数えると、54カ国から派遣された、文民を含めた50万人以上の男女がこれまでに平和維持活動のために働いています。そしてその平和への奉仕の中で、750人以上がその命を落としています。

以前にも2回、国連平和維持活動に携わった人々がノーベル平和賞を受けています。1950年のノーベル賞は、国連平和維持活動の主な立て役者だった国連のラルフ・バンチ氏が授賞しています。1957年には、カナダのレスター・ピアソン外務大臣が、1956年のスエズ動乱の際の国連緊急軍設立における活動で受賞の栄に浴しています。

国連平和維持活動には2つの形態があります。監視団と平和維持軍です。

最初の平和維持活動は1948年に中東に設置された監視団でした。イギリスがパレスチナに対する支配を正式に終え、24時間以内にイスラエルが建国宣言をしました。すぐにアラブ人社会とユダヤ人社会の間で激しい戦闘が勃発しました。翌日、パレスチナ・アラブ人を支援するための正規兵が近隣のアラブ諸国から派遣され、イスラエルに入りました。

国連とスウェーデン人の国連調停官フォルケ・ベルナドッテ伯、そしてその補佐役ラルフ・バンチ氏の上に、突然大きな責任がのしかかってきました。当初、パレスチナ問題は話し合いにより解決できると考えられていました。しかし、1948年の夏が近づくにつれ、パレスチナ難民の問題が持ち上がり、解決の見通しはいっそう遠のいていきました。

1948年5月、安全保障理事会はベルナドッテ伯が、1カ月前に設置された休戦委員会と協力して停戦を監視することを決め、そのために十分な数の軍事監視員を提供しました。

しかし1948年9月17日、ベルナドッテ伯はこの任務を果たす前に、エルサレムのイスラエル支配地区で暗殺されてしまいます。

ベルナドッテ伯の後をついで臨時調停官となったバンチ氏は、多国籍の軍事監視団を組織し、配置し、活動手続きを設定しました。この国連休戦監視機構（UNTSO）は最初の停戦監視団となりま

した。バンチ氏は国連のこの開拓的な活動の主要な設立者となりました。1949年早々、彼は持ち前の判断力と想像力に富む交渉術で、誰もが不可能と考えていたこと、つまりイスラエルとエジプト、ヨルダン、レバノン、シリアのアラブ近隣諸国との間の休戦協定を、1949年早々に成し遂げたのです。

1956年7月、ナイル川のアスワン・ハイ・ダムへの西側諸国の融資が、突然中止されました。エジプトは、当時イギリスとフランスの共同会社により管理されていたスエズ運河を国有化し、これに対抗しました。10月後半、イスラエル、フランスそしてイギリスがエジプトに侵略しました。

安全保障理事会は、フランスとイギリスの拒否権により活動不能に陥り、この問題審議のために、緊急特別総会が召集されました。11月4日、総会はダグ・ハマーショルド事務総長に対し、停戦と全ての軍隊の撤兵の保証を話し合うよう委任しました。イギリスとフランスの面子を立てながら、両国が撤兵できるような方法を見つけることが、国連が果たすべき主要な任務であることがはっきりしてきました。

ハマーショルド事務総長は、非暴力の国際的な軍事活動のための青写真を構想しました。カナダのレスター・ピアソン外務大臣は、侵略軍の撤退を監視するための国連軍の設立の承認を総会から勝ち得ました。

何か新しい事態が起こる前に、フランス、イギリスおよびイスラエルの軍隊の撤退を保証するために、緊急軍はできる限り速やかに組織され、エジプトに展開されなければなりません。すぐに、UNTSOの司令官に対しカイロに事務所を開設するように指示が出され、その間ニューヨークでは最初の国連平和維持軍の召集と組織の準備がなされました。

国連緊急軍(UNEF)が設置されエジプトに送られると、どのように国連平和維持兵を見分けるか、という問題が起こりました。この時、ブルーベレーとブルーヘルメットが生まれたのです。UNEFにはこれを作るだけの十分な時間がなかったので、アメリカ軍の余分なヘルメットが青く塗装されました。

UNEFの設立は国連の歴史に新しい時代を刻みました。ペレス・デクエヤル事務総長がノーベル賞受賞演説で言ったように、「戦争遂行のためではなく、支配を確立するためでもなく、いかなる勢力の利益に奉仕するためでもなく、むしろ人々の間の紛争を防止するために軍隊が国際的に展開されたのは、歴史上最初の事だった」のです。

彼は、平和維持を次のように説明しています。「平和維持とは、軍人を戦争の道具としてではなく、平和のための奉仕者として用いることである。これにより軍事領域に非暴力の原則が導入されたのである。」

UNTSOと第一次UNEFの展開以降、国連は全部で18の平和維持活動を展開してきました。その多くは監視団です。最近では、8つの平和維持活動が活動中です。

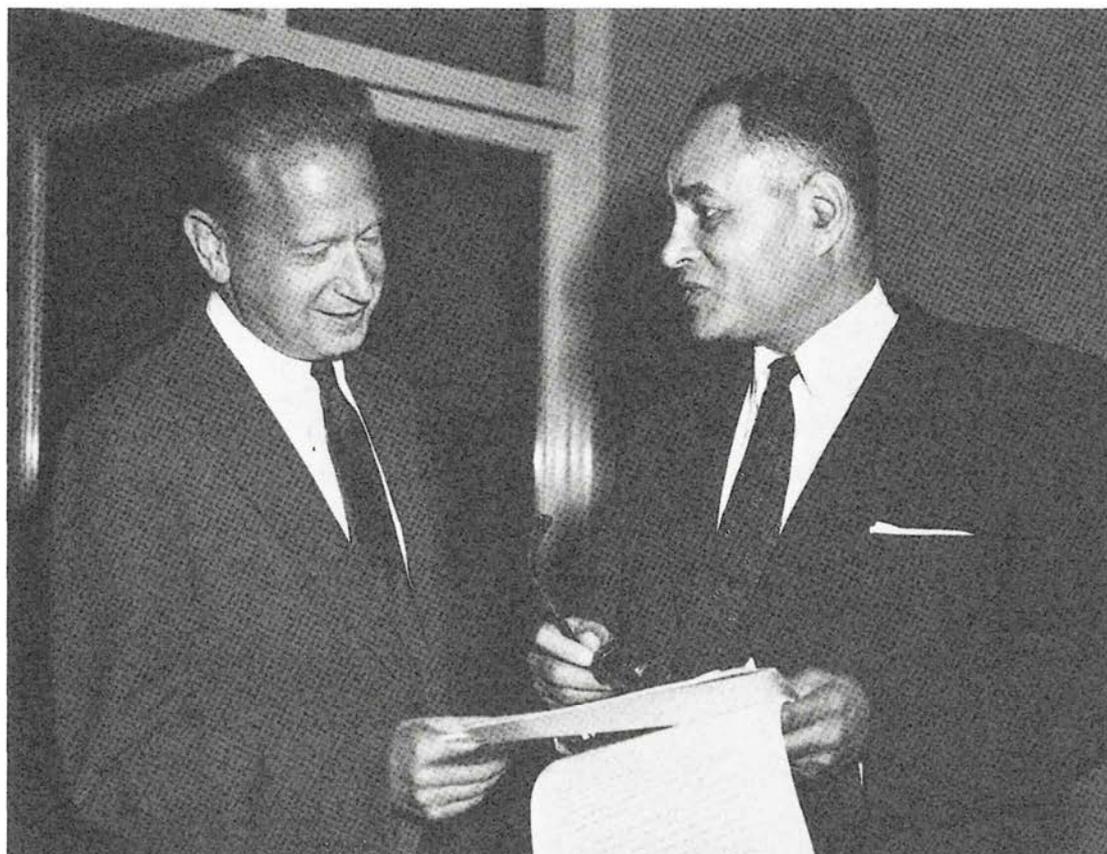
国連平和維持活動は40年以上の歴史を持っていますが、個々の活動は安全保障理事会がそれぞれの任務を定めて創設されており、現在でも多分に即興的な性格を持っています。このような活動は恒久的に設置されるものではありません。

近年、平和の架け橋としての国連の有効性への信頼が回復しています。このため新たな平和維持活動が増大しています。

アンゴラでは、国連アンゴラ検証団（UNAVEM）を通じて、国連はキューバ兵の撤退の検証に携わりました。国連ナミビア独立移行支援グループ（UNTAG）では、国連は選挙を監視・管理して、ナミビアの平和的独立移管を援助しました。UNTAGは、4,500人の軍事部隊そして文民と警官部隊を伴う、国連平和維持活動でも最も大規模なものの一つでした。



部下と協議をする、国連パレスチナ調停官フォルク・ベルナドッテ伯（右から2人め）。イスラエルとアラブ近隣諸国の戦闘に対し、国連が初めて軍事監視員を利用した。



タグ・ハマーショルド事務総長（左）とラルフ・バンチ事務次長

〔演習例〕

1. 「平和」ということばから連想される言葉を5つ書き出してみましょう。
2. あなたの住んでいる地域社会は平和だと思いますか。その状況は、あなたが考える平和と一致していますか。

さらに詳しくは

- その地域には共通の目標、または共通する標準的な行動様式がありますか。
- 全ての住人がその地域社会に属していますか。それとも誰か仲間外れにされていますか。
- その地域が何をするか、誰が決めますか。その決定は誰が実行しますか。その人たちはどのように選ばれていますか。
- 意見が合わないときはどのように解決していますか。武力が使用されたことはありますか。もし武力が使われたことがある場合、どのような状況でしたか。
- 資源は平等に配分されていますか。誰か他の人より多く得ている人がいますか。
- 平和な社会のための条件を話し合ってみましょう。どのような態度や出来事が、平和を破壊するでしょうか。

3. ある期間、新聞を毎日読んでみましょう。

(期間の長さは教師が決めて下さい)

- 世界には主にどんな紛争がありますか。
- その紛争の原因は何でしょうか。
- あなたの国か、あなたの国がある地域は紛争に巻き込まれていますか。
- その紛争の解決のために、国連が役立つと思いますか。もし思う場合は、どの紛争に対して、どのような方法で役立つでしょうか。
- 紛争を避けることができると思いますか。その方法は。



4. 世界の平和の推進のために、あなたは何ができると思いますか。できるだけ具体的に考えてみましょう。次のページの事務総長のノーベル賞受賞演説の最後の節が参考になるでしょう。

(写真の説明)

国連平和維持活動の主な創始者の一人であるブライアン・E・アークハート元特別政治問題担当事務次長と話し合う、ハビエル・ペレス・デクエヤル国連事務総長(右)。

1989年1月9日の事務総長のノーベル賞受賞記念講演より

平和。この言葉は、人類の最も素朴で最も大事な夢を思い起こさせます。平和とは現在の、そしてこれまでもずっと人類の根元的な願望なのです。しかし、私達が絶えず平和を語ってきたにも関わらず、その行動は全く違うことをやってきました。

平和とはいったい何を意味するのでしょうか。

平和と人類の本質は相対的なものです。生命の本質が闘争と競争だとすると、完全な平和とはほとんど無意味で抽象的なものになります。闘争と競争は刺激的なものです。しかしそれが紛争に墮落していくと、それはしばしば破壊的で分裂的になります。国連のような政治機構の目的は、闘争と紛争の間に線を引き、そのあるべき側に各国がいられるようにすることです。平和維持活動はこのためのきわめて具体的な方法なのです。

私達が国連の中に創設しようとしているのは、諸国が戦争の無益さと優しい未来を保証するための集団的責任を、同時に認識する世界なのです。

全ての人類の経験は、国際問題においても、国内問題のように、好適な条件で生活することを望む全ての社会にとって、法律が本質的で最終的な目標であることを示しています。私達は、今や全ての人間、つまりこの星の全ての人々が、技術の革命的な力とその他の変革を通じて、多くの点で一つの社会になりつつあることを認識しています。この大きな社会が好適な条件に向かっているか否かの判定には、国際法と国際的な権威の改革と尊重が決定的になるのです。

私達が平和維持について語るとき、現状では国際的活動の一分野に言及することになります。しかし平和維持の原則と技術は他の分野や問題にも適用され、関連しています。つまり、公正と正義の原則、国際的な権威の象徴的な存在、協力を通じて同意を得る過程、国際的な決定に従うための口実の提供、事実調査の能力、合意の履行の監視、災害を事前に察知し紛争を防止する能力の発展、がそれです。これらはすべて、平和維持の基本的な要素であり、さらに発展が必要とされています。これは同時に、国際社会が緊急に取り組まなければならない地球的問題を扱うための重要な原則となるのです。

授業例Ⅳ 平和維持とは何か

〔授業の目標〕

- 紛争の原因を理解する。
- 平和への脅威と取り組む国連の手法を学ぶ。
- 暴力を避け他人の権利を尊重するには、勇気と強さが必要であることを認識する。

〔授業を行なう上での提案〕

- この授業例は2つの章で構成される。最初の章は、生徒が、紛争が発生する原因と平和が回復できるような方法についての理解を深めることができるように、架空の事例を掲げている。第2章は、国連が平和への脅威に対処する方法に関する実際的な事例研究を掲げている。
- 演習例では、生徒が架空の事例と実際の国連平和維持活動を比較できるように考えられている。
- 国連の平和維持のための手法に親しんでから、自分自身を紛争状態に置いて、解決のための話し合いをまねてみる。
- 実際の国連平和維持活動を勉強することにより、国際紛争や平和への脅威に発展するような状況に関する、一般的な考え方を発達させる。

読んでみよう(1)「2つの村の話ーある架空の紛争ー」

何年か前、AとBという2つの隣あう村が、その境界にある小さい放牧地について争っていました。2つの村の人々はそれぞれの家畜を放牧していましたが、草原を共同で使うことは難しく、ときどきいさかいが起こっていました。

ある日、A村の村長はB村の人間が草原を使えないようにしようと決心しました。村長は村の力自慢に草を守るよう頼みました。B村の住民が草原に近づこうすると、棒や石で襲われることになりました。

B村の村長はすぐに反撃にでました。A村の人間と闘うために強者を差し向けたのです。B村の人の方が強く、A村の村民達は草原から追い出されてしまいました。戦いはなおも続きましたが、間もなくB村はA村の領地の一部を占領しました。

その間、ふたつの村の住人は戦争の惨禍にさらされました。多くの人が戦いに召集されるにつれ、畑や工場で働くことのできる人は少なくなって行きました。食糧難になりました。病院はあふれ、多くの命が失われました。

ついに、近隣の村の長老の助けにより、A村とB村は戦争を止めることに合意し、停戦を宣言しました。長老はその息子たちに停戦を監視させました。そして賢人を集め、平和がしっかりしたものになるようにするためのグループを作りました。しかし、境界線の問題は未解決のまま残りました。

戦いが止んだ時、B村の軍隊はA村の領土の一部を占領していました。B村は2つの村の間の境界は、この新しく獲得した領土を含んで決められるべきだ、と信じていました。しかしA村は、B村が草原の境界まで戻るよう求めていました。

何年間か膠着状態が続いた後、再び戦いになりました。A村は失った領土を武力で取り返そうと準備をしていましたが、その間にB村は前以上の領土を獲得しました。

以前調停につとめた長老が、他の近隣の村に解決のために協力するよう呼びかけました。近隣の5つの村の村長が集まり、A村とB村に戦いを止めて元の境界線まで戻るように呼びかけました。

しかしB村はその獲得した土地から引き上げることを拒否しました。5つの近隣の村は人員を派遣して平和軍を編成し、対立する2つの村の間の中立地帯に駐留させることを決めました。

それ以来、戦争こそ起きていませんが、平和交渉はたいした進展がなく、中立地帯の近くでは暴力事件が頻発していました。

最近、B村の村民がA村より奪った境界の土地に移住を始めました。最も新しい暴力事件は、この村民達が木を切り始めたときに起こりました。B村に奪われる前、かつてそこに住んでいたA村の人々が賢人達に訴えました。このB村の村民が切っている木は彼らの祖先が植えたもので、何世紀もの間一族のものだったと言うのです。この抗議にも関わらず、B村の人々は木を切り続けました。

何日か前、A村の人々はその祖先のものだった土地に入り込み、何軒かの家に火を放ちました。A村とB村は長老に、この事件の調停のために近隣の5つの村の村長会議を開くよう頼みました。

〔演習例〕

1. この物語に登場した平和のための手法を挙げてみましょう。それを、以下に掲げる平和の維持と紛争の解決のための国連の現実の手法と比べてみましょう。

平和のための国連の手法

事務総長は

- 平和及び安全を脅かすと認める事項について、安全保障理事会の注意を促すことができる
- 仲介を行う

安全保障理事会は

- 国際の平和と安全の維持に関して主要な責任を持つ
- 紛争の平和的解決を探る
- 停戦委員会、平和維持軍、停戦監視団を設置し、討論や交渉の場を提供する

総会は

- 国際の平和と安全の推進及び維持に関する措置を検討し、勧告する
- 国際の平和及び安全を危うくする虞のある事態について、安全保障理事会の注意を促すことができる。

2. あなたが村長会議に出席しているA村かB村の代表だとしたら、

- どんな主張をしますか。
- 紛争解決のためにどんな提案をしますか。

3. 平和維持問題全般について話し合ってみましょう

- A村とB村は、どうして平和な社会を維持できなかったのでしょうか。
- なぜこの2つの村はこのような行動をとってしまったのでしょうか。憎しみ、恐れ、怒り、不安、劣等感それともフラストレーションのためでしょうか。
- 次にどのようなことが起こるのでしょうか。あなたが考える方法で暴力沙汰を減らし、戦争の拡大を防ぎ、この地域の安定に貢献すると思いますか。
- A村とB村の出来事を、国連の調停によって当事国の間に合意が成立した実際の場合と比べてみましょう。26ページの国連平和維持活動の一覧表を参考にして下さい。国連はこの話に登場した方法と同じような方法を使ったのでしょうか。

まず調停官に委任された和平活動は、1968年以降事務総長による仲介努力という形で継続されており、この枠内で、ギリシャ系住民の代表とトルコ系住民の代表の間で話し合いが持たれています。

1974年7月、ギリシャ系将校の率いる国家警備隊がキプロスの実権を握り、状況が急激に変化しました。トルコ政府は保証条約を援用して軍事行動を開始、島の37%を勢力下におきました。

安全保障理事会はこれを審議し停戦を呼びかけました。1974年8月半ばに停戦が発効しました。国連平和維持兵は、緩衝地帯を設置することにより敵対する軍隊を引き離し、難民の保護を援助しました。この戦闘により20万人以上が住む土地を失い、国連は彼らに人道援助を行いました。

ギリシャ系住民とトルコ系住民の指導者の話し合いは、事務総長の斡旋の下で続けられていました。しかし同年2月にトルコ系住民の指導者が、トルコの支配が「長期的かつ連邦制国家の基礎の上に組織される」と発表した後、会談は決裂しました。安全保障理事会はこの一方的な措置に遺憾を表明し、話し合いの再開を助ける新たな努力を呼びかけました。

1975年4月に会談が再開され、その年さらに3回の話し合いが持たれました。3回目の会談で、島の南部のトルコ系住民が国連平和維持兵の援助により北へ向かうことを認め、多くのギリシャ系住民がその家族と再開するために北部に移動することで合意に達しました。北部のギリシャ系住民は南部へ自由に行き滞在できるようになりました。

1975年11月、キプロス内の外国軍隊が即時撤退することを、総会が再び要請しました。（トルコ軍は島北部に残留しており、現在2万9,000人を越えています。）

1977年2月、事務総長の斡旋の下で両者の指導者が会談し、住民代表の指針に関する上級レベルの合意に達しました。この指針は、独立した、非同盟の、2つの社会が共存する連邦国家を目指すことを含んでいました。しかし、その後の両者の会談は決裂しました。

UNFICYPに属するスウェーデン歩兵部隊の男女隊員の早朝訓練



読んでみよう（２） 「キプロスの場合」

キプロスはトルコの海岸の近くの島国で、人口は約67万人。その約80%がギリシャ系キプロス人、20%がトルコ系キプロス人です。

長年にわたるイギリスの支配の後、1960年にキプロスは独立しました。その憲法はギリシャ系住民とトルコ系住民の利益のバランスを取るようにつくられていました。この措置は保証条約と、ギリシャ、トルコ、イギリスが加入する同盟条約によって支えられていました。

この憲法の下では、大統領はギリシャ系住民、副大統領はトルコ系住民とされ、その他の条項でも両者が政府に参加することが保証されていました。憲法は多数派の優越を避け、それぞれの社会の部分的な行政自治を保証することを目指していました。

しかし現実には、共和国の建国とほとんど同時に憲法の条文の適用は困難になりました。2つの社会の緊張が高まり始め、憲法の危機が相次いで訪れました。ついに1963年12月、島内の2つの社会の間で戦いが勃発しました。

キプロスは国連に訴えました。そして安全保障理事会が、トルコが国内問題に干渉し侵略行為に関わっている、という訴えについて審議しました。トルコはこれを全面的に否定し、ギリシャ系住民の指導者が2年以上もの間トルコ系住民の権利を踏みにじろうとしてきた、と主張しました。

両者の間の紛争が再発するのを防ぎ、法と秩序を回復するため、安全保障理事会は平和維持軍を設置しました。国連キプロス平和維持軍（UNFICYP）です。そして問題の平和的解決を推進するために調停官を任命するよう事務総長に要請し、キプロスの領土保全に反する行動を慎むよう各国に要請しました。



羽のある友達と出会ったUNFICYPのスウェーデン兵。平和維持兵は平和的話し合いのための雰囲気醸成を援助する。

1979年5月、事務総長の斡旋の下で両者の指導者が2回目の会合を行ない、会談を再開することを含む、10項目の合意に達しました。会談が改めて召集されましたが、すぐに休会し、1980年8月まで再開されませんでした。

1983年、総会がキプロス問題に関する決議を採択しました。しかしトルコ系住民側はこの決議を強く拒否し、ギリシャ系住民との会談に出席しないことを決めました。

1983年11月、トルコ系住民当局は「北キプロス・トルコ共和国」の樹立を宣言しました。安全保障理事会は、この宣言を法的に無効とし、その撤回を求める決議を採択しました。

事務総長は、新たな平和へのイニシアチブとして1984年に両者の代表と会合しました。その後、両方の指導者の間で数回の「近接会談」（間接会談）が持たれました。1984年から86年にかけて、事務総長は3種類の文書案を両者に提出しましたが、どの案もどちらかの側に受け入れられませんでした。

その後の行き詰まった数回に及ぶ協議の後、1988年に事務総長は、その斡旋の下で直接会談を行なうよう説得しました。1988年8月24日、ジュネーブでの会談の歴史的な昼食会で、両者の指導者は前提条件をつけずに会談をし、キプロス問題の話し合いによる解決を目指すことで合意しました。それ以来、100時間を越える両指導者のニコシアでの会談と、ニューヨークにおける事務総長を交えた数回の高級会談にも関わらず、未だに合意に達していません。この努力は今も続いています。これに関して、1990年3月12日、安全保障理事会は決議649（1990）を採択し、解決を達成するための枠組みを確認し、かつ明瞭にしています。

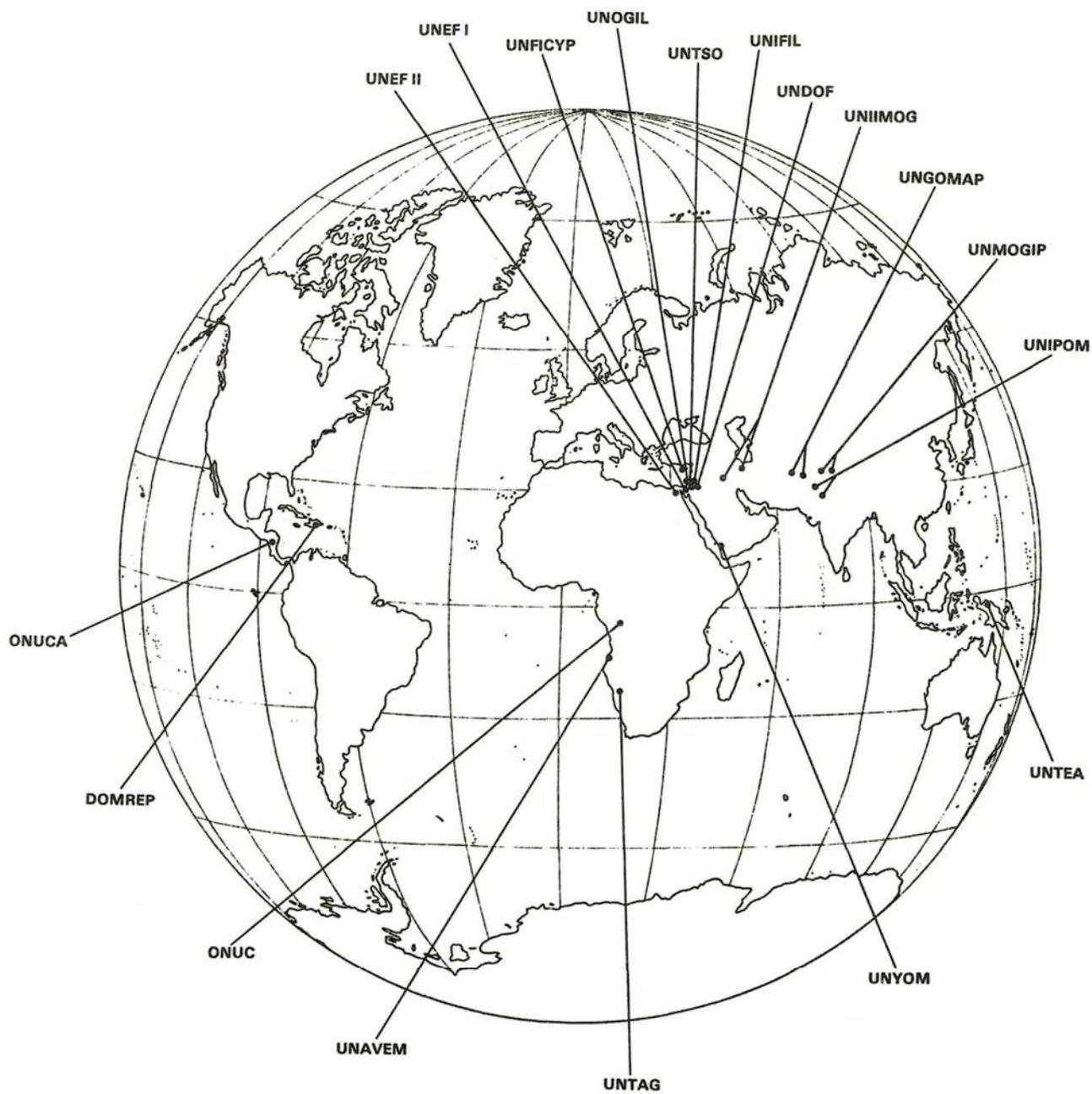
〔演習例〕

1. 26ページの国連平和維持活動の一覧表を見て、これを、国連の介入が求められている紛争や平和への脅威の主なタイプに区分してみましょう。この演習をする前に、それぞれの紛争の背景を調べる必要があります。以下に、区分の例を掲げます。
 - (a) 新たに独立国が生まれる過程に関する紛争
 - (b) 国境や領域への苦情に関する紛争
 - (c) 他国の内政へのある国の干渉に関する訴えから起こる紛争
 - (d) 例えば、異なる民族や言語のために起こる国民の間の紛争のように、国内の対立から起こる紛争
 - (e) ある国が別の国に武力攻撃を行なうという形をとる、平和への脅威
 - (f) 国内に駐留する外国軍に関する紛争
 - (g) 条約違反に起因する紛争
2. 国連平和維持活動の一つを取り上げ、国連の介入が必要とされる紛争状況をさらに調べてみましょう。
 - 紛争の原因は何ですか。どんな出来事によって対立が引き起こされましたか。
 - 誰が国連の介入を求めましたか。
 - 国連はどのように行動しましたか。国連がどのように紛争を取り扱うかを述べた下記の囲み記事を参考にして下さい。
 - 国連は紛争への取り組みに際してのなんらかの目的を達成したでしょうか。例えば、他の国が干渉し、より危険な状況になるのを防ぐのに国連は役立ちましたか。国連の決定した解決条件は受け入れられましたか。それとも受け入れられなかったでしょうか。
 - 紛争は解決されましたか。もし解決されたならば、どのようにしてですか。解決されなかった場合、国連は今も和平達成の活動を続けていますか。

紛争はどのように扱われるかー平和的解決のための方法ー

1. **交渉** 平和的解決のための交渉に決まった形式はない。「直接交渉」とは両当事国（場合によっては3ヵ国以上）の代表が直接会うことである。間接交渉は、「調停者」か「第三者」を通じて行なわれる。両者を集め、その合意形成を援助しようとする第三者はいわゆる「仲介」を行います。事務総長は紛争解決によく仲介を行います。
2. **調停**とは、公正な第三者が仲介を行いながら同時にその問題の話し合いに参加し、時には解決に向けて勧告を行うことである。
3. **和解**とは調停と似ています。和解団は紛争当事者両者の委員と、中立な委員から構成される。
4. **調査**とは事実関係を把握し、問題点を明確にするために、紛争を調べることである。
5. **仲裁**とは対立する両者が、公正な部外者の決定を受け入れることである。
6. **司法解決** 仲裁と似ていますが、これは問題が平和条約など、国際法の解釈を求めるときに使われる。

これまでの全ての国連平和維持活動の地図と一覧表



1989年12月現在

すでに活動を終えた平和維持活動 (人員の数は最大時のもの)

中 東

第一次国連緊急軍 (UNEF-I)、1956年-1967年

任 務 エジプトとイスラエル間の停戦の監視

本 部 ガザ

人員数 兵士6,000人

死亡者 90人

費 用 約2億2,000万ドル

国連レバノン監視団 (UNOGIL)、1958年

任 務 レバノン国境を越えた武器の不法な供給を防止

本 部 ベイルート

人員数 軍事監視員591人

死亡者 なし

費 用 約370万ドル

国連イエメン監視団 (UNYOM)、1963年-1964年

任 務 サウジアラビアとアラブ連邦共和国の間の兵力引き離し協定の履行監視と保証

本 部 サナ

人員数 軍事監視員25人と兵士164人

死亡者 なし

費 用 約180万ドル

第二次国連緊急軍 (UNEF II)、1973年-1979年

任 務 停戦とエジプト・イスラエル両軍の撤退の監視

本 部 イスマイリア

人員数 兵士6,973人

死亡者 52人

費 用 約4億4,600万ドル

コ ン ゴ

コンゴにおける国連活動（ONUC）、1960年－1964年

任 務	ベルギー軍の撤退の保証、政府が法と秩序を維持することの支援、コンゴ共和国の領土保全と政治的独立の維持
本 部	レオポルドビル（現キンシャサ）
人員数	1万9,825人
死亡者	234人
費 用	約4億ドル

インドネシア

国連西ニューギニア（西イリアン）保安隊、1962年－1963年

任 務	国連暫定行政機関の下に域内の平和と安全を維持すること
本 部	ホランディア（現ジャヤプラ）
人員数	兵士1,500人と航空隊76人
死亡者	なし
費 用	インドネシアとオランダにより半額ずつ負担された

ドミニカ共和国

ドミニカ国連事務総長代表使節団（DOMREP）、1965年－1966年

任 務	状況を監視し、停戦違反を報告すること
本 部	サントドミンゴ
人員数	軍事監視員2人
死亡者	なし
費 用	約27万5,000ドル

インド亜大陸

国連インド・パキスタン監視団（UNIPOM）、1965年－1966年

任 務	インド・パキスタン国境（ただしジャンムとカシミールは除く）の停戦の監視
本 部	ラホールとアムリツァール
人員数	軍事監視員96人
死亡者	なし
費 用	約170万ドル

アフガニスタン

国連アフガニスタン・パキスタン仲介ミッション (UNGOMAP)

1988年-1990年

任 務 アフガニスタンからの外国軍隊の撤退とジュネーブ協定の他の条項の監視
本 部 カブールとイスラマバード
人員数 監視員40人
死亡者 なし

ナミビア

国連ナミビア独立移行支援グループ (UNTAG)、1989年-1990年

任 務 国連の監視および管理による選挙を通じ、ナミビアの独立への平和的移行を支援すること
本 部 ウイントフーク
人員数 兵士4,500人と文民2,300人 (警察監督官と選挙監視員を含む)
死亡者 11人

☆ 1990年11月30日現在活動中の国連平和維持活動 (死亡者は1990年11月15日現在)

中 東

国連休戦監視機構 (UNTSO)、1948年-

任 務 中東における休戦、停戦協定及び停戦の監視
本 部 エルサレム
人員数 軍事監視員290人
死亡者 28人

国連兵力引き離し監視軍 (UNDOF)、1974年-

任 務 1974年の戦争以来のイスラエルとシリアの間の停戦の監視
本 部 ダマスカス
人員数 兵士および軍事監視員1,328人
死亡者 兵士25人

国連レバノン暫定軍 (UNIFIL)、1978年ー

任 務 南部レバノンからのイスラエルの撤退の確認とレバノン政府の権限の回復の援助
本 部 ナクラ
人員数 5,835人
死亡者 175人

インド亜大陸

国連インド・パキスタン軍事監視団 (UNMOGIP)、1949年ー

任 務 ジャム州とカシミール州におけるインドとパキスタンの間の停戦の監視
本 部 ラワルピンジとスリナガル
人員数 軍事監視員38人
死亡者 5人

キプロス

国連キプロス平和維持軍 (UNFICYP)、1964年ー

任 務 トルコ系住民とギリシャ系住民の間の戦闘の再発の防止、法と秩序の回復と平常への復帰の援助
本 部 ニコシア
人員数 兵士2,126人と文民警官44人
死亡者 154人

ペルシャ湾

国連イラン・イラク軍事監視団 (UNIIMOG)、1988年ー

任 務 イランとイラクの間の停戦と撤兵の監視
本 部 バクダッドとテヘラン
人員数 軍事監視員および活動支援要員203人
死亡者 1人

アンゴラ

国連アンゴラ検証団 (UNAVEM)、1989年ー

任 務 アンゴラにおけるキューバ兵の再駐留と撤退の検証
本 部 ルアンダ
人員数 軍事監視員60人
死亡者 なし

中央アメリカ

国連中米監視団（ONUCA）、1989年－

任 務 1987年8月にコスタリカ、グアテマラ、エルサルバドル、ホンジュラスおよびニカラグアにより結ばれたエスキプラスII合意に含まれる安全保障措置に基づく検証。ONUCAの任務は、当初、不正規軍への援助の停止と他国の攻撃のためにある国の領土を使用しないことを検証することだったが、後に、ニカラグアの反政府軍の自発的な武装解除に関する役割を含むよう拡大された。

本 部 テグシガルパ

人員数 軍事監視員および活動支援要員423人

死亡者 なし



ウィントフークの街、コマスダルの子どもたち。

「自由かつ公正な選挙を」と書かれたUNTAGのステッカーを手にする。

UNTAGは自由の国へと生まれかわるナミビアを支援した。

国連平和維持活動に関する資料目録

推薦図書

「ブルー・ヘルメット－国連平和維持活動の歩み－」国際連合

DPI /1065, 1990、販売番号E. 90. I. 18

「事務総長のノーベル賞受賞記念講演」 SG/SM/4249 国際連合 1989年

「紛争解決、平和維持及び包括的安全保障における国連の役割に関するNGO年次会議における事務総長の挨拶」 国際連合1988年9月 SG/SM/4194

エルンスト・B・ハース「国連と国際紛争の集団的管理」(UNITAR出版物)、ST/19, 1986年. 販売番号E. 86. XV

「国際的関心と国連」 初等中等教育及び教員研修用教材 国連出版物 販売番号 86. I. 8

フィルム・ビデオ

「国連について教える－国連平和維持活動」

高校生向けの教育用ビデオ。出演はダーモット・アーリー陸軍中佐。

「平和を求めて」

静かな外交はめったに新聞の一面を飾ることがないが、事務総長の不可分の役割である。この1988年制作の映画は、国連の能力と平和創造の過程を世界各国がどのように再認識しているかを語る。例えばイラン・イラク戦争、アフガニスタンに関する協定、キプロス紛争そしてナミビアなどについて国連の平和創造および平和維持が関わった、または今も関わっている状況の事例を伝える。アラビア語、英語、フランス語、スペイン語版がある。1988年制作。30分。

「平和の戦士」

1948年の創設以来、国連平和維持活動は世界の最も微妙な問題を抱える地域において活動を続けてきた。1988年、アフガニスタン協定の監視と、イラン・イラクの停戦監視のための2つの平和維持活動が設置された。ノーベル委員会は1988年、この英雄的な活動の「平和のための必要性と危険な任務」を讃え、ノーベル平和賞を授与した。この国連のテレビ・ドキュメンタリーは、今、活動中の平和維持活動と、新たな軍の設置における興奮と兵站上の困難を描く。フィジー、レバノン、シリア、イラン、イラクでの撮影に続き、フィジーの故郷を離れて南レバノンで平和維持の任務につく兵士を追いかける。アラビア語、英語、フランス語、スペイン語版がある。1988年制作。27分。

「国連の平和維持－状況報告－」

現在、約1万人の兵士が国連平和維持軍に参加している。その任務は何か。その直面する問題は何か。この映画は、キプロスと中東において活動する23ヵ国からなる平和維持兵のある一日の様子を描く。英語とフランス語版がある。1987年制作。27分。

「間に立つ男たち」

1978年以来、6,000人からなる国連の小さな軍隊が、南レバノンの平和を守ろうとしてきた。この多国籍の防衛的な軍隊は様々な勢力の間の緩衝以上の役割を果たしている。国連レバノン暫定軍（UNIFIL）は、未だに安全保障理事会から受けた任務を完遂できていない。しかしその存在により一応平和を保ち、中東全体を覆ってしまうかも知れない武力紛争を制限してきた。この映画はこの地域とそこに住む人々の戦いの影響の物語を描く。アラビア語、英語、フランス語、スペイン語版がある。1982年製作。26分。

「6月の或る日－ゴラン高原の兵力引き離し－」

1974年6月、戦火で引き裂かれたゴラン高原に国連平和維持軍が配置された。1,200人の兵士が国連兵力引き離し監視軍（UNDOP）の任務に就いたが、ゴラン地帯はシナイ砂漠とは際だった対照をなしていた。このため、この誰のものでもない土地への市民の帰還というもう一つの問題があった。英語版。1975年製作。27分。

「シナイ砂漠の兵士－平和維持の物語－」

国連緊急軍の設立に関する基礎的な映画。1973年中東で戦争が勃発した後、対立する勢力の間に割って入るため兵士達がシナイ砂漠に赴いた。その任務は戦闘を止めさせ、敵対勢力を分離し、外交的に和平を達成するのに必要な休止をもたらすことであった。映画は、多くの国から集まり、様々な言葉を話し、異なる装備で、異なる食事に親しんだ人々が、独特な国際平和軍としていっしょに活動をすることを学んでいく様子を描く。英語版。1975年製作。27分。

「国連の緊急事態」

1973年10月6日、スエズ運河をはさんで銃撃戦が勃発、第4次アラブ・イスラエル戦争が始まり、国連は中東の歴史の中でも厳しい時期に突入した。これは、戦場の前線から会議の席に活動が移った、この劇的な数日間を記録した映画である。映画は、安全保障理事会が国連緊急軍の設立を決定した後、1秒を争う中で国際平和軍がどのように編成されたかを描く。ジュネーブの国連欧州本部において恒久的な平和が探索される中で、国連緊急軍の兵士達はこの地域に入り微妙な静けさを取り戻して行く。この映画は国際危機の本質と、この重大な挑戦に対し国連がいかに対処したかを見つめる。英語版。1973年製作。27分。

国連出版物／フィルムの入手方法

平和維持活動に関する国連出版物およびフィルムを入手されたい方は、国連広報センターにお問い合わせください。また国連ニューヨーク本部にお問い合わせになっても結構です。住所は以下のとおり。
Public Inquiries, Department of Public Information, United Nations,
New York, N. Y. 10017

この副教材は広報局通信企画管理部（CPMD）が作成いたしました。ご意見およびご希望、また国連教育の実戦例などがございましたら、以下までお送りください。

Education Information Officer
Department of Public Information
United Nations, Room S - 955
New York, NY 10017

1992年9月

国際連合広報センター

東京都港区南青山1-1-1 新青山ビル西館22階

〒107 電話(03)3475-1611~2

